

まちの話題



「火の用心お願いします」



11月9日～15日の秋季全国火災予防運動にあわせ、市内の園児たちが防火セレモニーとパレードを行いました。

大口ふれあいセンター前では、マーチングの披露や防火の誓いといったセレモニーを開催。その後のパレードでは、市内およそ1kmの道のりを元気に歩き、各スーパーの前では、訪れた買い物客に「火の用心お願いします」と注意を呼び掛けるチラシを配布しました。

韓国南海郡青少年交流団 来市



11月8日、姉妹都市の韓国南海郡から青少年交流団の子どもたちなど約20人が伊佐市を訪れました。

今年7月には伊佐市の子どもたちが南海郡を訪れており、歓迎会では、海の向こうからやって来た友達と久しぶりの再会を喜んでいました。交流団は2泊3日の日程で、伊佐市の家庭でホームステイをしました。本やスマートフォンを片手に慣れない外国語で会話しながら、お互いの絆を深めました。

障がい者ふれあいレクリエーション大会



11月12日に伊佐市総合体育館にて、第2回伊佐市障がい者ふれあいレクリエーション大会が開かれました。

参加した9チームは、わなげや卓球バレー、風船バレーのほかにパラリンピックの公式種目であるポッチャ（的球に向けて交互に転がし距離を競う）で得点を競いました。

表彰式ではプレゼンターで登場したイーサキングと初めての対面に喜びが溢れ、賞品は後回しで記念写真を撮る人も多くいました。

絵本「うちしたのはだれよ！」



読書週間にあわせた11月14日、大口南中学校の図書委員6人が生徒や教員ら60人を前に英語で絵本の読み聞かせを行いました。

来年度は統合され新中学校になることが決まっている南中学校では、閉校記念イベントが続いており、今回の企画は外国語指導助手(ALT)と協力して練習を重ねてきました。

緊張気味の生徒たちも、本番は表情豊かに絵本の世界を表現し、最後は絵本の内容について英語でクイズを出題、観客一体となりイベントを盛り上げました。

緑化優良工場等表彰



緑地の割合や維持管理など、緑化推進について特に功績のあった緑化優良工場等に対する表彰として、大口酒造株式会社第二蒸留所が一般財団法人日本緑化センター会長奨励賞を受賞し、川原健一会長が受賞報告をしました。

第二蒸留所は、霧島連山や伊佐の田んぼといった自然豊かな風景と調和するよう造られ、緑化活動はすべて工場で働く職員によって行われています。その積極的な工場緑化の推進が評価されました。

おめでとうございます。

湯之尾小「浴育授業」



11月10日、鹿児島の温泉を1,000か所以上入浴した経験をもつ、温泉ソムリエアンバサダーの「六三四(むさし)」さんを講師に迎え、さまざまな角度から温泉に関するお話を聞くことができました。

浴育授業は、むかし銭湯で習った公衆浴場のマナーなどを楽しく伝え、温泉王国鹿児島の子どもたちに地域資源である温泉をもっと知ってもらい、利用してもらいたいという想いで行っているそうです。

受講した湯之尾小5・6年生は、タオル片手に入浴気分で授業に参加。さすが温泉街育ちの児童たち、鋭い質問で授業を盛り上げました。

「シッタイだれたデ賞」



第13回KKBFふるさとCM大賞の出展作品が受賞しました。今年は、地域おこし団体ISART代表の前田忠亮さんが監督を務め、大口高校の生徒が出演しました。

テーマは「住みよさランキング」県内1位を獲得した伊佐市のいいところをこれまでになかった視点から表現した異色の作品です。

審査員からは高校生への頑張りを高く評価され、手づくり感満載の作品であることなどが受賞の理由です。

受賞作品(CM)は、KKBF鹿児島放送で順次30回放送されます。

伊佐ふるさとまつりに 「くまモン」登場



11月8・9日、伊佐ふるさとまつりが開催され、地元産の農産物や体験コーナーなどが人気で買物客は思い思いに楽しんでいました。

また、今年初めて開催された9日の「ご当地キャラリンピック in 伊佐」には、県内外から人気キャラが集結、中でも熊本県の「くまモン」には最大級の歓声を送られました。

曇り空で足元も悪い状況でしたが家族連れの姿も多く、ご当地キャラの人気の高さがうかがえました。

PRレディ・ボーイ委嘱式



県内外に向けて伊佐市をPRする、「伊佐市PRレディ・ボーイ」の委嘱式が11月5日にありました。

委嘱式の翌日には早速、福岡の報道機関でもみじ祭と伊佐市の宣伝をしました。

任期は来年10月31日までです。
(写真左から・敬称略)

宮脇小夏 福元真伊花 川島千織 若宮健太郎 内野伸哉

「交通安全」気をつけて！



高齢者が関係する交通事故が多発していることから、市内の全児童が祖父母や父母など大人へ向けて、ハガキで交通安全への注意を呼びかけました。

大口小2年の森山莉汐さんは「足腰が弱っているおじいちゃん、おばあちゃんのことを思って」、6年の片平実悠さんは「安全運転をして事故を起こさないで欲しい」との気持ちを込めてメッセージを書きました。

この取り組みは、伊佐地区安全運転管理協議会青年部の企画によるもので、ハガキは11月12日に投函されました。

伊佐市長模擬選挙



実際の選挙で使われる投票箱や集計装置などを使って、小学生に選挙制度を学んでもらう体験授業が、11月13日に大口東小学校で行われました。

これは、県の明るい選挙推進協議会が行う「出前講座」の一環で、伊佐市では初めての取り組みです。

体験授業はおよそ1時間、小学5・6年生およそ30人が日本の選挙制度や選挙のルールなどの説明を受け、続いて行われた模擬投票では伊佐市長模擬選挙に立候補した大学生3人の演説を聞いてから投票箱に一票を投じました。

開票結果が発表されると、自分が一票を投じた候補者の当選に歓声が沸いていました。